

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1470501154	事業の開始年月日	平成17年9月1日	
		指定年月日	平成17年9月1日	
法人名	社会福祉法人 育生会			
事業所名	たまたばこ			
所在地	(〒232 - 0066) 横浜市南区六ッ川2丁目107 - 43			
サービス種別 定員等	小規模多機能型居宅介護	登録定員		名
		通い定員		名
		宿泊定員		名
	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	H26年2月1日	評価結果 市町村受理日	平成26年4月11日	

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> 利用者一人ひとりの生活を支え寄り添うケアを常に目指している。また、利用者の希望を汲み取りながら、散歩・外出・外食・家事手伝い・歌・作品作り等を多く取り入れ、日常生活を楽しく過ごして頂けるよう対応している。 毎日の日課としては、オリジナル体操（365歩のマーチ）を行い、健康維持に繋げている。 ご家族の面会や外出も、いつでも自由にして頂いている。ホーム内の外出行事についても、ご家族も自由に参加して頂けるよう取り組んでいる。 日々の業務において、誤薬事故を防ぐシステムとして視覚からのチェックを重視し、薬を入れる容器や薬袋を色別し、また、スタッフ間で、Wチェック確認を行い事故を防ぐよう努力している。
--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8階		
訪問調査日	平成26年2月25日	評価機関 評価決定日	平成26年4月3日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

【事業所の概要】

この事業所は京浜急行弘明寺駅弘明寺口バス停、又はJR戸塚駅東口、およびJR東戸塚駅東口からのバスルートがあり、どのルートからも大池バス停で下車し、徒歩2分の「高齢者施設たまたばこ」ビルの2～3階である。1階は同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所で、防災訓練や行事を合同で行うなど連携している。屋上も利用しており、暖かい日はお茶を飲んだり、歩行練習などをしており、事業所は幹線道路から1本入った所であり、比較的閑静である。そばには飲食施設などもあり、利用者は家族とともに気軽にお茶や食事に出かけ気分転換をすることもできる。理念は「共に生き 共に笑い 寄り添い 見守り 助け合う」である。その他「私たちは、利用者の方を目上の人として敬意をもって接します」など9つの柱からなる「職員の心得」を大切にしている。職員は地域の中でその人らしい生活ができるように利用者を支援している。

【介護サービス、ケアの質の向上の取り組み】

管理者は毎月法人が行っている運営会議（CS向上委員会）に参加して利用者、家族へのサービスの向上に努めている。事業所は 近隣の散歩や買い物支援する。明るい笑顔で接するを「チャレンジCS13」として掲げ実践している。法人が行う新任研修が年2回（4月、10月）、職員全体研修が年2回（7月、3月）ある。職員全体研修は身体拘束など29項目を学ぶ機会がある。参加できない職員には資料を渡しレポートを提出してもらっている。その他に月1回の館内研修（危険予知訓練など）、外部研修（衛生管理講習会など）を受講し、その内容を職員間で共有してケアの質の向上に取り組んでいる。

【地域との交流】

六ッ川上一自治会に加入し、夏祭りなどに出かけている。自治会長には運営推進会議に参加していただいている。事業所の総合防災訓練に地域の方2名が参加し、協力してくれた。お正月には、大池の獅子舞が来てくれる。管理者は老人会の会合に出向き事業所の概要や特徴などを説明して事業所の啓発活動を行った。保育園のクリスマス会に出かけ園児との交流がある。音楽（月1回）、書道（月1回）のボランティアが来所し、利用者の暮らしに彩りを添えている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	たまたばこ
ユニット名	2階

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない	
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない	

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
む		理念に基づく運営			
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の念を基本に地域密着型サービスとしての理念を職員全員に吸い上げ作り上げた。施設単位の理念ではあるが、職員全員で意識を高め、共有し実践に繋げている。	理念は「共に生き 共に笑い 寄り添い 見守り 助け合う」である。1階の小規模多機能型居宅介護事業所と理念を共有している。9つの柱からなる職員の心得も大事にしている。職員は利用者に寄り添い笑顔のケアに努めている。	理念について更に管理者、職員間で日常的に話し合われることが期待されます。
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外食、買い物、散歩等の外出を通しご利用者、職員と一緒に交流を深めている。	六ッ川上ー自治会に加入し、夏祭りなどに出かけている。お正月には、大池の獅子舞が来てくれる。管理者は老人会の会合に出向き事業所の啓発活動を行った。保育園のクリスマス会に出かけ園児と交流した。音楽、書道のボランティアが月に1回来所し、利用者の暮らしに彩りを添えている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開催している老人会の会合に参加させて頂き、施設サービスの特徴や概要を説明した。また、施設パンフレットを提供し、いつでも相談窓口が開けてあることを努めとした。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。 委員会開催時は、施設の状況報告を行い、ご意見やアドバイスを頂き向上に努めている。	運営推進会議は自治会長、民生委員、家族代表者、ケアプラザ所長・職員、法人関係者、管理者などの参加で5、7、9、11、1月に開催している。参加者から「ヒモ遊び」や行事などの情報提供を受け、レクリエーションに活かした。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者があり、入院の必要性が生じた場合、担当職員と連絡を取り合い、ご利用者、そのご家族が不安を抱えないよう支援に努めている。	地域ケアプラザとは何かあれば相談できる関係を築いている。運営推進会議録を提出するほか、要介護認定の更新代行を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新規職員の新任研修や法人全体で行われる職員全体研修を実施している。尚、研修に参加できなかった職員には、スタッフ会議にて再度、周知を行い、身体拘束をしないケアを実践している。	身体拘束は行われていない。7月の全体研修で身体拘束廃止について学んでいる。日中、ユニットの玄関、居室は鍵をかけていない。「南区徘徊SOSネットワーク」に事業所として加入している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新規職員の新任研修や法人全体で行われる職員全体研修を実施している。研修に参加できなかった職員には、スタッフ会議にて再度、周知を行い、考え方を共有できるよう取り組んでいる。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新規職員の新任研修や法人全体で行われる職員全体研修を実施している。研修に参加できなかった職員には、スタッフ会議で再度、周知を行い、考え方を共有できるよう努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、契約内容（解除も含む）を十分説明を行い、ご理解頂いた上で締結している。また、内容の改訂がある場合は、家族会を通して十分に説明した上、ご理解、ご了承を頂いている。		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設入口に、意見投書箱を設置している。運営に関する意見及び提案を行える体制を取っている。提案内容は、常務理事を含め、管理者が定期的実施している運営会議上で検討する機会を設けている。検討された事項については、館内会議においてスタッフに周知している。	年1回の家族会、運営推進会議で意見を出せる場がある。家族から「災害時などに有効なソーラ電池を活用してみてもどうか」という意見があり、階段にソーラ電池で作動する照明を設置した。法人のCS向上委員会に参加して利用者サービスの向上に取り組んでいる。	利用者、家族からサービスについてアンケート形式などで意見や提案を聞く機会があればさらに良いと思われます。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設入口に書箱を設置し、運営に関する意見及び提案を行える体制を取っている。また、法人の全体会議、当施設の全体会議、館内会議、スタッフ会議においても意見や提案が出しやすいよう配慮している。	毎月のスタッフ会議時には前もって会議で取り上げてほしいことを書ける「職員会議ご意見用紙」を配付して意見を出しやすいようにしている。意見などは職員間で話し合って反映させている。年1回、個人面談の機会があり、法人に管理者を通じて意見を言う機会がある。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に、職員一人ひとりの力量を把握に努め、働きやすい職場環境の整備に力を入れているまた、併設の小規模多機能管理者とも相談をして職場環境の整備を行いスタッフの力量を低下しないよう努め、給与水準や役職への導き等についても考慮し、法人事務局への申し入れを行うよう努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に、一人ひとりの力量を把握するように努めている。新任研修や、法人全体で行う職員研修や館内研修に参加して頂きスキルアップの向上に繋がるよう取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会へ参加し他施設との情報交換の機会がある。相互間のスキルアップの向上に繋がるようにしている。地域包括センターや他施設の連絡を密にし、情報ネットワークを拡張して、サービスの質を高めるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所する前のご本人の情報収集を十分に把握し、入所後においても、ご利用者が不安や困惑を抱いていないか十分に傾聴するように努め、安心して生活が送れるように支援している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学を受けた後、ご家族の不安や要望を十分に把握して、地域密着型サービスとしての地域の中で安心して暮らせるよう支援している。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人及びご家族の相談内容を十分に見極め、その時に合ったサービスの利用や他のサービスへの紹介等を含め支援している。		
18		本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者の背景を知り、ご利用者が、これまで担ってきた手作業（裁縫、料理）の技術を学び、ご利用者と共に作業にあたっている。		
19		本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設内、イベントや外出、個人の外出等、共にご利用者様を支えていけるように努めています。また、ご利用者が悩みを抱え、不安な思いがある時などはご本人、ご家族、職員も一緒に話し合いを行い、苦しい胸の内を傾聴し、その時に合った支援を行えるよう努める。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣地域からの入所が多数あるため、入所前の友人や一緒に働いていた元同僚、親族の面会、電話の取次ぎ、年賀状のやり取り等、これまでの関係が途切れないよう努めている。また、面会の際は、フロアー、居室で楽しく出来るよう配慮している。	利用者の友人など来訪時は様子を見て話題の中に入り、職員が雰囲気づくりをすることもある。家族と馴染みの美容室や法事などに出かける方もいる。年賀状、クリスマスカードの代筆や電話の取次ぎをしている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者、各々のADLの状況を把握した上で、レクリエーションや共通の話題を提供し、出来るだけ多くの利用者に参加して頂けるよう努めている。また、コミュニケーションが困難なご利用者に対しては、職員が間に入り円滑に出来るよう努めている。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了した場合であっても、施設イベントの開催をお知らせし、出来るだけ参加協力を頂き、ご家族との関係をいつまでも継続できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご利用者の気持ちに出来る限り寄り添えるよう努めています・また、スタッフ間においても、ご利用者の要望等は、何かについても共有しながら、出来る限り希望、意向が叶えられるよう支援している。	思いや意向の把握は普段から日常の中で聞き取っている。把握の困難な方には寄り添いながら気持ちを引き出し、思いをかなえるようにしている。「家族と話したい」という利用者の気持ちを汲み取り、家族に電話をかける支援をすることなども行っている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式によるアセスメントを用いて、これまでの状況把握に努めている。また、日常の会話の中からも思いや意向を引き出せるよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入所前の生活状況を把握して、入所後の共同生活の場の暮らし方等についても何か不都合が生じていないか確認する。また、カンファレンスや記録を通し、身体状況や残存能力を重視しながら現状の把握に努めている。		
26	10	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を基に、日々のケアを行っている。また、再アセスメントを取り、ご本人の思いやご家族様の要望等を傾聴し情報収集する。介護支援専門員、計画作成担当者、居室担当者が施設サービス計画を作成し、介護計画を作成している。	家族、医師の意見を取り入れ介護計画を作成している。介護計画の見直しは通常6か月に1回、アセスメントも一緒に見直ししている。モニタリングは毎月1回行っている。介護計画を単なる計画で終わらせないための工夫として、ケアプラン実施表を活用し、毎日、勤務の職員が計画に沿ってサービス提供出来ているかどうかを記録する仕組みがある。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご様子やケア実践内容については、業務日誌、ケアプラン実施表、個別ケースに記入している。また、特変状況については、職員間での連絡ノートに記載し状況把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設としての特徴（小規模多機能型居宅介護）を活かし職員間の連携や協力体制を図っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括センターである地域ケアプラザや自治会からの情報の提供を受けている。また、ボランティアの方々の協力を得ながらご利用者が安心して暮らせるよう支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を受け、希望者には入所後も馴染みの、かかりつけ医へ受診をご家族の協力を得ながら継続している。入所後は、協力医療機関からの隔週の受診を受けている。他には、地域の訪問歯科、泌尿器、皮膚科の協力を得ながら健康維持に努めている。	本人家族の希望する医療機関で受診できる。協力医以外は家族の対応で受診になっている。家族が同行できない場合は話し合い、職員が代行している。受診結果は家族と連絡ノートで共有している。内科医が隔週1回、皮膚科・泌尿器医が月1回、歯科医が2週に1回訪れ、利用者の健康管理を支援している。	
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人本体の看護師と医療連携をとり指導及び援助を受けている。複合施設の小規模多機能型居宅介護の看護師（非常勤）が従事しているため、日常の健康管理への相談や指導を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関へご利用者の情報提供を伝えて治療が出来るようにしている。退院が近い場合は、MSW及び担当医、ご家族とのムンテラに参加させて頂き、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時の段階で、「重度化した場合における対応に係る指針」に基きご本人及びご家族に説明し、重度化した場合における同意書に同意を受けた上で職員及び関係者で方針を共有している。</p>	<p>事業所は「重度化した場合における対応に係る指針」に沿って看取りまで行う方針である。ターミナル研修、ミーティング時に誤嚥について職員に話している。これまでに看取りの事例はない。家族に急変時の延命治療を行うかどうかを確認している。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的ではないが、他の事例状況を学び、隔週での往診医からの指導を受けている。職員には、法人での救命講習研修に参加して頂き実践力を向上するよう努めている。</p>	/	/
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>館内において、概ね2ヶ月に1回と年2回総合防災訓練（昼夜想定）として職員に周知している。総合防災訓練時には、災害に備え炊き出しを実施している。訓練の際は、ご家族や近隣住民、消防署の方にも参加協力体制を築いている。</p>	<p>年2回の総合防災訓練は夜間想定で8月に行われた。地域から2名の参加協力があり、炊き出しでおにぎりを作った。次回は3月29日（2月が延期）の予定である。防災訓練は職員の意向で昼間、夜間想定を交互に訓練している。カセットコンロなど備品や水、カレーライス、ビスケット、缶詰など食料品を職員も含めて3日分を備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしているの	ご利用者の自尊心を傷つけない声かけや場面設定（排泄場面等）心かけている。また、個人記録については、書庫に管理、当日の記録等については、バインダーに挟み伏せ、直接目に触れないよう努めている。	新任研修で接遇について学んでいる。『職員の心得』に「利用者の方を目上の人として敬意をもって接する」という項目がある。管理者は職員に利用者と目線を合わせて落ち着いて話すように伝えている。個人情報に係る書類は事務所の奥まった場所にあるキャビネットで保管されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いや願いを傾聴し、自己決定、自己実現出来るよう努めている。（裁縫に必要な道具の購入、日常生活している化粧品の購入、食べたい物の提供）意思表示の困難なご利用者様に関しては、時間をとり傾聴姿勢で接し自己決定できるよう繰り返し説明するよう努めている。難聴の方へは、筆談での説明を行い自己決定できるよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアー清掃や居室清掃、朝の体操、レクリエーションを提供する時間等、全体での日課はあるが自由参加である。何か行う前には、参加への意思表示を確認した上、個々のペースを守り尊重し希望に添えるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隔月で訪問理美容業者が来館している。ご利用者様やご家族様の希望により理容、美容を受けて頂いている。また、馴染みの美容院へも通われたりしている。外出時は、洋服を選び、小物を持ち、おしゃれを楽しんで頂いている。		

40	15	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>月曜日～土曜日の昼食、夕食の主菜は、法人と同じメニューが運ばれている。ご飯、味噌汁等は、当施設で準備して提供している。朝食と日曜日は、すべて手作りして提供している。特に日曜日のメニューについては、ご利用者の希望など事前に伺い、また、季節の旬の食材等を工夫して提供している。また、出来る限り準備の手伝いや、料理の味見、盛り付け下膳のお手伝い等を行って頂いている。</p>	<p>利用者と職員が食材の買い物やもやしのひげ取り、食器拭きなどを一緒にしている。訪問時は食後の下膳をしていた。職員も利用者と同じ食事を同席して利用者に声をかけながら食べていた。雰囲気はBGMをかけ和やかであった。当日の献立は黄色、緑と食材の彩りもよく、また、野菜も食べやすいように細かくカットされており、高齢者への食事の配慮がされていた。気候が良いときは月1回ぐらいのペースで外出に行っている。パンケーキなどの手作りおやつを作ることもある。</p>	
----	----	---	---	---	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては、法人本体の管理栄養士が作成した献立により昼食、夕食となっている。食事量は、その都度計測している。定時水分提供時間（三食の提供時、10時・3時・就寝時）を含め摂取量を計測し、1日を通して確保出来るようにし、不足気味の場合は、職員が把握出来るようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけをしている。居室または、共同の洗面所においてご利用者に歯磨きや口腔洗浄をして頂いている。自力で出来ない方については、職員が対応している。夜間においては、義歯を預かり、毎晩、洗浄剤につけ除菌、消臭を防いでいる。また、口腔内に問題が生じる場合は、地域訪問歯科医に相談して指導、援助を受けている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合った取り組みを職員間で共有し援助している。排泄に失敗し、気力の低下がある場合にもきちんと受け止め、無理強いケアにならないようご利用者と職員間で良い方法を見つけ対応出来るよう努めている。	排泄パターンは排泄表（睡眠時間確認表を併記）や月間排便チェック表で把握している。排泄表を見てその方に合った誘導をしている。夜間はポータブルトイレ、オムツを使う工夫をしている。入院で排泄にダメージがあった方に誘導で立位を取ってもらうなどして改善した事例がある。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足に気をつけて、ご利用者様には出来る限り体を動かして頂く為に、毎日体操を行っている。また、乳製品や食物繊維豊富な食材を提供するよう心かけている。また、便秘が続いている場合は、職員間で連携をとり、水分補給時に個別に、きな粉牛乳の提供をし、工夫をしている。それでも、便秘が改善されない場合は、往診医に相談し内服薬の処方を受けている。		

45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴曜日は、決まっている。基本的には午後入浴としている。午後に往診や訪問行事等が入った場合は、午前中に変更をお願いする場合がある。ご利用者が観たいテレビや軽作業に集中している際は、順番を考慮したり、当日の入浴の変更など受け入れたりその方のペースに合わせて臨機応変に対応している。</p>	<p>入浴表があり週2回入浴している方が多い。シャワー浴もしている。現在は入浴を拒まれる方はいない。利用者が同性介助を希望される時は同性介助にしている。見守りで入浴をされる方もいる。季節にはゆず湯や菖蒲湯にしている。</p>	
----	----	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に野外からの灯りを遮断して安眠出来る居室状態を保つ為に、遮光カーテンを使用している。各々の生活環境を重視した上で昼夜逆転や生活リズムが崩れない程度で休息の声かけをし、シーツ交換や布団干し等を行い安眠できるよう努めている。また、日中、レクリエーションや体を十分に活動して頂き、夜間は、気持ちよく入眠して頂けるよう努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員に周知出来るよう、ご利用者個々に連絡ノートを作成しており往診の所見や薬の変更などがあった場合の内容等、詳しく記載内容を速やかに職員間で情報を共有している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者のADL及び残存能力に応じたレクリエーションや軽作業を常に提供している。また、夏には、野菜の苗を購入して収穫を楽しみ食材として味わって頂いている。また、苗の水やり食事準備や食事の片づけ場面においても各々の得意な作業に参加して頂いている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の身体状況を把握して、なるべく買い物等がある場合は、戸外への外出を適宜に実施している。また、その日に、帰宅願望が強い場合は、出来る限り、ご本人に添えるよう外出を促し気分転換を図るよう支援している。	「散歩・外出・買物等表」で実施状況を確認し、皆が外出できるようにしている。車いすの人も一緒に出かけている。春は港の見える丘公園、秋にはバスで富士花鳥園に家族も参加して外出を楽しんだ。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者それぞれの小口現金をご家族よりお預かりして、ご家族の了解の上でご本人に千円単位の現金を所持して頂き買い物の際、自由に使用出来るよう支援している。現金の取り扱いが困難な利用者様には、職員で対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話の取次ぎやご利用者が家族へ電話したい等の要望がある場合は、フロアーにある電話を使用して頂いている。年賀状をご家族へ出したい等の要望にも支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃時の合間や空間に臭気が停滞しないよう適宜に換気に努めている。また、フロアーや居室にあるエアコンも定期的に業者を入れ清掃している。ご利用者の身体状況に合わせ、温度調整を行い、快適に過ごして頂いている。空間演出については、ご利用者様と一緒に作った作品や季節に合った掲示品の交換を行い、季節感の工夫をして楽しんで頂けるよう対応している。	利用者が紙で作った手作りのお雛様、伝統的なお雛様、水仙の花などが飾ってあり季節が感じられる共用空間になっている。訪問時は明るすぎる日差しにカーテンを開け閉めして調整していた。加湿器で湿度に配慮し、気になる臭いや空気よどみもなかった。テーブルは形が変えられるようになっている。テーブルはそのとき利用者が安心できるような形に組み合わせて使用している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現時点では、ご利用者の座席は決まっている。新入所者が入所した際などは、座席変えに協力して頂き、他のご利用者とも馴染みの関係作りが出来るよう配慮している。フロアーには、ソファもあり、座席とは違った場所での過ごし方も楽しんで頂けるよう配慮している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、居室の範囲内での使い慣れた家具等の持ち込みを促している。居室内配置については、ご本人及びご家族の意思を尊重した上で、転倒の危険性に配慮した居室空間のお手伝いを居室担当が中心になって実施している。	居室には、エアコン、カーテン、洗面台、洋服ダンスが設置されている。利用者は仏壇、テレビ、テーブル、椅子、造花などを思い思いに持ち込みその人らしい部屋になっていた。	

55	一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各々の居室入口付近に、ご本人の居室であるか確認出来るよう表札を設置している。また、3ヶ所のトイレや浴室の表示をして理解出来るように工夫している。共有部分においては、ご利用者の歩行を妨げないよう物品の配置等を十分配慮して自立した生活が送れるよう努めている。		
----	--	---	--	--

事業所名	たまたばこ
ユニット名	3階

アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)	」	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11,12)		1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の念を基本に地域密着型サービスとしての理念を職員全員に吸い上げ作り上げた。施設単位の理念ではあるが、職員全員で意識を高め、共有し実践に、繋げている。		
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外食、買い物、散歩等の外出を通しご利用者、職員と一緒に交流を深めている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域で開催している老人会の会合に参加させて頂き、施設サービスの特徴や概要を説明した。また、施設パンフレットを提供し、いつでも相談窓口が開けてあることを努めとした。		
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催している。委員会開催時は、施設の状況報告を行い、ご意見やアドバイスを頂き向上に努めている。		
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護受給者がおり、入院の必要性が生じた場合、担当職員と連絡を取り合い、ご利用者、そのご家族が不安を抱えないよう支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新規職員の新任研修や法人全体で行われる職員全体研修を実施している。尚、研修に参加できなかった職員には、スタッフ会議にて再度、周知を行い、身体拘束をしないケアを実践している		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新規職員の新任研修や法人全体で行われる職員全体研修を実施している。研修に参加できなかった職員には、スタッフ会議にて再度、周知を行い、考え方を共有できるよう取り組んでいる。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新規職員の新任研修や法人全体で行われる職員全体研修を実施している。研修に参加できなかった職員には、スタッフ会議で再度、周知を行い、考え方を共有できるよう努めている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時、契約内容（解除も含む）を十分説明を行い、ご理解頂いた上で締結している。また、内容の改訂がある場合は、家族会を通して十分に説明した上、ご理解、ご了承を頂いている		
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設入口に、意見投書箱を設置している。運営に関する意見及び提案を行える体制を取っている。提案内容は、常務理事を含め、管理者が定期的実施している運営会議上で検討する機会を設けている。検討された事項については、館内会議においてスタッフに周知している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設入口に書箱を設置し、運営に関する意見及び提案を行える体制を取っている。また、法人の全体会議、当施設の全体会議、館内会議、スタッフ会議においても意見や提案が出しやすいよう配慮している。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に、職員一人ひとりの力量を把握に努め、働きやすい職場環境の整備に力を入れている。また、併設の小規模多機能管理者とも相談をして職場環境の整備を行いスタッフの力量を低下しないよう努め、給与水準や役職への導き等についても考慮し、法人事務局への申し入れを行うよう努めている。		
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に、一人ひとりの力量を把握するように努めている。新任研修や、法人全体で行う職員研修や館内研修に参加して頂きスキルアップの向上に繋がるよう取り組んでいる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム連絡会へ参加し他施設との情報交換の機会がある。相互間のスキルアップの向上に繋がるようにしている。地域包括センターや他施設の連絡を密にし、情報ネットワークを拡張して、サービスの質を高めるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所する前のご本人の情報収集を十分に把握し、入所後においても、ご利用者が不安や困惑を抱いていないか十分に傾聴するように努め、安心して生活が送れるように支援している。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>施設見学を受けた後、ご家族の不安や要望を十分に把握して、地域密着型サービスとしての地域の中で安心して暮らせるよう支援している。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご本人及びご家族の相談内容を十分に見極め、その時に合ったサービスの利用や他のサービスへの紹介等を含め支援している。</p>		
18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>ご利用者の背景を知り、ご利用者が、これまで担ってきた手作業（裁縫、料理）の技術を学び、ご利用者と共に作業にあたっている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>施設内、イベントや外出、個人の外出等、共にご利用者様を支えていけるように努めています。また、ご利用者が悩みを抱え、不安な思いがある時などはご本人、ご家族、職員も一緒に話し合いを行い、苦しい胸の内を傾聴し、その時に合った支援を行えるよう努める。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近隣地域からの入所が多数あるため、入所前の友人や一緒に働いていた元同僚、親族の面会、電話の取次ぎ、年賀状のやり取り等、これまでの関係が途切れないよう努めている。また、面会の際は、フローア、居室で楽しく出来るよう配慮している。</p>		
21		<p>利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>ご利用者、各々のADLの状況を把握した上で、レクリエーションや共通の話題を提供し、出来るだけ多くの利用者に参加して頂けるよう努めている。また、コミュニケーションが困難なご利用者に対しては、職員が間に入り円滑に出来るよう努めている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>サービス終了した場合であっても、施設イベントの開催をお知らせし、出来るだけ参加協力を頂き、ご家族との関係をいつまでも継続できるよう努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>ご利用者の気持ちに出来る限り寄り添えるよう努めています・また、スタッフ間においても、ご利用者の要望等は、何かについても共有しながら、出来る限り希望、意向が叶えられるよう支援している。</p>		
24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>センター方式によるアセスメントを用いて、これまでの状況把握に努めている。また、日常の会話の中からも思いや意向を引き出せるよう努めている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>入所前の生活状況を把握して、入所後の共同生活の場の暮らし方等についても何か不都合が生じていないか確認する。また、カンファレンスや記録を通し、身体状況や残存能力を重視しながら現状の把握に努めている。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画を基に、日々のケアを行っている。また、再アセスメントを取り、ご本人の思いやご家族様の要望等を傾聴し情報収集する。介護支援専門員、計画作成担当者、居室担当者が施設サービス計画を作成し、介護計画を作成している。</p>		

27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々のご様子やケア実践内容については、業務日誌、ケアプラン実施表、個別ケースに記入している。また、特変状況については、職員間での連絡ノートに記載し状況把握に努めている。</p>		
----	--	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設としての特徴（小規模多機能型居宅介護）を活かし職員間の連携や協力体制を図っている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括センターである地域ケアプラザや自治会からの情報の提供を受けている。また、ボランティアの方々の協力を得ながらご利用者が安心して暮らせるよう支援している。		
30	11	かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望を受け、希望者には入所後も馴染みの、かかりつけ医へ受診をご家族の協力を得ながら継続している。入所後は、協力医療機関からの隔週の受診を受けている。他には、地域の訪問歯科、泌尿器、皮膚科の協力を得ながら健康維持に努めている。		
31		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人本体の看護師と医療連携をとり指導及び援助を受けている。複合施設の小規模多機能型居宅介護の看護師（非常勤）が従事しているため、日常の健康管理への相談や指導を受けている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、医療機関へご利用者の情報提供を伝えて治療が出来るようにしている。退院が近い場合は、MSW及び担当医、ご家族とのムンテラに参加させて頂き、病院関係者との情報交換や相談に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時の段階で、「重度化した場合における対応に係る指針」に基きご本人及びご家族に説明し、重度化した場合における同意書に同意を受けた上で職員及び関係者で方針を共有している。</p>		
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>定期的ではないが、他の事例状況を学び、隔週での往診医からの指導を受けている。職員には、法人での救命講習研修に参加して頂き実践力を向上するよう努めている。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>館内において、概ね2ヶ月に1回と年2回総合防災訓練（昼夜想定）として職員に周知している。総合防災訓練時には、災害に備え炊き出しを実施している。訓練の際は、ご家族や近隣住民、消防署の方にも参加協力体制を築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の自尊心を傷つけない声かけや場面設定（排泄場面等）心かけている。また、個人記録については、書庫に管理、当日の記録等については、バインダーに挟み伏せ、直接目に触れないよう努めている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者の思いや願いを傾聴し、自己決定、自己実現出来るよう努めている。（裁縫に必要な道具の購入、日常使用している化粧品の購入、食べたい物の提供）意思表示の困難なご利用者様に関しては、時間をとり傾聴姿勢で接し自己決定できるよう繰り返し説明するよう努めている。難聴の方へは、筆談での説明を行い自己決定できるよう努めている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたか、希望にそって支援している	フロアー清掃や居室清掃、朝の体操、レクリエーションを提供する時間等、全体での日課はあるが自由参加である。何か行う前には、参加への意思表示を確認した上、個々のペースを守り尊重し希望に添えるよう努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	隔月で訪問理美容業者が来館している。ご利用者様やご家族様の希望により理容、美容を受けて頂いている。また、馴染みの美容院へも通われたりしている。外出時は、洋服を選び、小物を持ち、おしゃれを楽しんで頂いている。		

40	15	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>月曜日～土曜日の昼食、夕食の主菜は、法人と同じメニューが運ばれている。ご飯、味噌汁等は、当施設で準備して提供している。朝食と日曜日は、すべて手作りして提供している。特に日曜日のメニューについては、ご利用者の希望など事前には、ご利用者の希望など事前に伺い、また、季節の旬の食材等を工夫して提供している。また、出来る限り準備の手伝いや、料理の味見、盛り付け下膳のお手伝い等を行って頂いている。</p>		
----	----	---	---	--	--

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスに関しては、法人本体の管理栄養士が作成した献立により昼食、夕食となっている。食事量は、その都度計測している。定時水分提供時間（三食の提供時、10時・3時・就寝時）を含め摂取量を計測し、1日を通して確保出来るようにし、不足気味の場合は、職員が把握出来るようにしている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけをしている。居室または、共同の洗面所においてご利用者に歯磨きや口腔洗浄をして頂いている。自力で出来ない方については、職員が対応している。夜間においては、義歯を預かり、每晚、洗浄剤につけ除菌、消臭を防いでいる。また、口腔内に問題が生じる場合は、地域訪問歯科医に相談して指導、援助を受けている。		
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	ご利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、その方に合った取り組みを職員間で共有し援助している。排泄に失敗し、気力の低下がある場合にもきちんと受け止め、無理強いケアにならないようご利用者と職員間で良い方法を見つけ対応出来るよう努めている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足に気をつけて、ご利用者様には出来る限り体を動かして頂く為に、毎日体操を行っている。また、乳製品や食物繊維豊富な食材を提供するよう心がけている。また、便秘が続い		

			<p>ている場合は、職員間で連携をとり、水分補給時に個別に、きな粉牛乳の提供をし、工夫をしている。それでも、便秘が改善されない場合は、往診医に相談し内服薬の処方を受けている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>入浴曜日は、決まっている。基本的には午後入浴としている。午後に往診や訪問行事等が入った場合は、午前中に変更をお願いする場合がある。ご利用者が観たいテレビや軽作業に集中している際は、順番を考慮したり、当日の入浴の変更など受け入れたりその方のペースに合わせて臨機応変に対応している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間に野外からの灯りを遮断して安眠出来る居室状態を保つ為に、遮光カーテンを使用している。各々の生活環境を重視した上で昼夜逆転や生活リズムが崩れない程度で休息の声かけをし、シーツ交換や布団干し等を行い安眠できるよう努めている。また、日中、レクリエーションや体を十分に活動して頂き、夜間は、気持ちよく入眠して頂けるよう努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員に周知出来るよう、ご利用者個々に連絡ノートを作成しており往診の所見や薬の変更などがあつた場合の内容等、詳しく記載内容を速やかに職員間で情報を共有している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者のADL及び残存能力に応じたレクリエーションや軽作業を常に提供している。台所仕事を得意とするご利用者が多く1日の中で工夫して行っている。また、夏には、野菜の苗を購入して収穫を楽しみ食材として味わって頂いている。		
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の身体状況を把握して、なるべく買い物や施設周辺の草花の観賞に出かけたり、歩行の困難な方も車椅子を利用し、近隣のスーパーや郵便局への用事足しを積極的に行っている。		

50		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご利用者それぞれの小口現金をご家族よりお預かりして、ご家族の了解の上でご本人に千円単位の現金を所持して頂き買い物の際、自由に使用出来るよう支援している。現金の取り扱いが困難な利用者様には、職員で対応している。</p>		
----	--	--	---	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの電話の取次ぎやご利用者が家族へ電話したい等の要望がある場合は、フロアにある電話を使用して頂いている。年賀状をご家族へ出したい等の要望にも支援している。		
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃時の合間や空間に臭気が停滞しないよう適宜に換気に努めている。また、フロアや居室にあるエアコンも定期的に業者を入れ清掃している。ご利用者の身体状況に合わせ、温度調整を行い、快適に過ごして頂いている。空間演出については、ご利用者様と一緒に作った作品や季節に合った掲示品の交換を行い、季節感の工夫をして楽しんで頂けるよう対応している。		
53		共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	現時点では、ご利用者の座席は決まっている。新入所者が入所した際などは、座席変えに協力して頂き、他のご利用者とも馴染みの関係作りが出来るよう配慮している。フロアには、ソファもあり、座席とは違った場所での過ごし方も楽しんで頂けるよう配慮している。		
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、居室の範囲内での使い慣れた家具等の持ち込みを促している。居室内配置については、ご本人及びご家族の意思を尊重した上で、転倒の危険性に配慮した居室空間のお手伝いを居室担当が中心になって実施している。		

55		<p>一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>各々の居室入口付近に、ご本人の居室であるか確認出来るよう表札を設置している。また、3ヶ所のトイレや浴室の表示をして理解出来るように工夫している。共有部分においては、ご利用様様の歩行を妨げないよう物品の配置等を十分配慮して自立した生活が送れるよう努めている。</p>		
----	--	--	---	--	--

目 標 達 成 計 画

事業所名

たまたばこ (GH)

作成日

26年 4月 10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	危険予知訓練の研修を見直す。	危険・予知する能力を高め、事故を未然に防げるようにする。	ご利用者の安全を確保するために、月1回資料等をもとに研修を実施する。	12ヶ月
2	10	CS向上運動（お客様の満足度）の取り組みとしてチャレンジCS13を課題とする。	ご利用者・ご家族の皆様に、安心して生活し、満足して生活して頂けるようにする。	新年度、当施設に於いてのCS向上推進委員会を設け、課題を定め目標に努めていく。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。